

パパ・ママ子育て知恵袋

第26回は「子供のプライド」

私たちは「大人」になって、「子供」の時の自分を忘れてしまいます。

私たちは子供の時に、子供なりの**プライド**をもっていました。それをすっかり忘れてしまうことがあります。

子供たちと接していると、「しまった！」と思わず反省してしまうことがあります。子供の**プライド**を傷つけてしまったかも知れないと感じる瞬間があります。虐待というような話ではありませんが、子供の**プライド**に紙やすりをかけるように、ざらりと傷つけてしまったかも知れないと感じる瞬間があります。

「こういうこと言われて、オレ嫌だったよな」と自分の子供時代に大人に言われて傷ついた記憶がよみがえります。同じようなことを自分が子供に言っていることに気づくことがあります。ひやりとします。

にやにや笑いながら、抵抗や反抗ができない私をからかってきた大人を忘れることができません。その大人に私の子供としての**プライド**は大いに傷つけられました。今でも恨みに思っています。

「子供だから、これくらいやってもいいだろう」とか「子供なんだから、これくらい言ってやんないとわからないだろう」というのは、大人の勝手な思い込み。

「子供は、傷つけられて育つんだから、腫物に触るような接し方はよくない」というのは、子供を傷つけて平気な大人の言い訳だと思います。

子供には、「いいことはいい。悪いことは悪い」と毅然と言い聞かせなければならないことが多々あります。それは絶対に必要で、そうしなければ大人がいる意味がないです。そこは、ビシッといきたいです。

でも、ちょっとした態度や振る舞い、何気ない一言で、大人目線の「冗談やいじり」で、子供の**プライド**は傷つきます。

女性蔑視発言が問題になっている昨今、子供の**プライド**だって軽視されているんじゃないかと思います。親として、教育者として考えなければならないことの一つです。